科目名	憲政史　　History of Constitutionalism						
科目担当者	今枝 昌浩　　IMAEDA Masahiro						
単位数	2	配当年次	2年	授業形態	講義	開講学期	後期
履修学部・学科［区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科［専門教育科目　専門科目］ 他学部他学科履修〇					ディプロマポリシーとの関連	(1)(4)
授業の概要	憲法に基づいた政治を指して「憲政」という。それでは、なぜ政治は憲法に基づかなければならないのだろうか。この授業では、これまで日本が憲政をめぐって辿ってきた道程を確認するとともに、それぞれの制度や事件が日本の憲政史にとってもつ意味を考える。具体的な内容としては、しばしば中学・高校の社会科（日本史）の授業では時間をかけて扱われることの難しい近現代史に関わる。						
授業の到達目標	①立憲主義の考え方および目的を説明できる。 ②これまで日本は憲政の実現を目指して具体的にどのような形をとって（経緯を辿って）きたのか、時系列的または体系的に説明できる。						
授業計画・内容	1	イントロダクション：立憲主義のコンセプトと法の支配					
	2	日本の近代国家化					
	3	統一国家と文明国家					
	4	立憲国家の端緒					
	5	自由民権運動と国会開設の勅諭					
	6	大日本帝国憲法の成立					
	7	大日本帝国憲法の下での「内閣」とは					
	8	政党の台頭					
	9	政党政治と大正デモクラシー					
	10	政党内閣と憲政の常道					
	11	政党政治の全盛期					
	12	政党政治の修正					
	13	太平洋戦争下の日本政治					
	14	日本国憲法の下での「内閣」：議院内閣制とは何か					
	15	戦後日本の政治体制					
授業外学修 (事前学修)	事前にアップロードする資料（レジュメ）および中学・高校で使った社会科の教科書の関連頁に目を通しておくこと（毎週 2 時間程度)。						
授業外学修 (事後学修)	授業内で行った、あるいはレジュメに記載されている、問い掛けに対して自身の言葉（文章）で答えられるようにしておくこと（毎週 2 時間程度）。						
成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法			評価比率		到達目標との対応	
	授業内での「小テスト」および授業参加姿勢 定期試験			20% 80%		①② ①②	
成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合						
教科書	特に指定しない。						
参考文献	清水唯一郎・瀧井一博・村井良太『日本政治史』（有斐閣・2020 年） 大石眞『日本憲法史』第 2 版（有斐閣・2005 年）						
その他	この授業は、こんにちの政治を観る視点にも繋がるため、特に社会科の教員を目指す者には問題意識をもって聴講してほしい。また、いま存在する制度や仕組みは決して所与のものではなく、必要とされて獲得された歴史があるという点に注意してほしい。なお、問い掛けに対する挙手による応答・発言（授業参加姿勢）は積極的に評価する。						